

**安心して働ける  
活力あるまち**

## ① 魅力ある農林業をめざすまち

### 農業基盤の整備

3823万円

(担当：産業振興課農林畜産グループ)

自然との共生を図りながら営まれている農業を支援するため、道が主体で実施したほ場や用排水施設の整備に要した経費の一部を負担しました。



【平成23年度の事業費と町の負担額】

(単位：万円)

区分	事業費	町の負担	道補助金	地方債	一般財源	整備内容
排水整備	31,595	1,486	1,911	1,830	82	排水路 0.4km
						暗きょ排水 6.6ha
ほ場整備	28,634	1,432				区画 119.5ha
用水整備	54,669	905				用水路 5.9km
						ため池附帯工事一式
						吉野頭首工調査設計
計	114,898	3,823	1,911	1,830	82	

### 基幹水利施設の管理

629万円

(担当：建設課都市管理グループ)

農業用水を安定して確保するため、吉野地区の新十津川ダムと総進地区の徳富川頭首工の適正な維持管理を行いました。



### 水利施設管理費の助成

1233万円

(担当：建設課都市管理グループ)

ダムや用水路などの管理費のうち、洪水防止機能などの農業生産以外の機能（多面的機能）に係る経費を土地改良区に助成しました。

## 農地・水保全管理支払交付金 2140万円

(担当：産業振興課農林畜産グループ)

農地や農業用水、豊かな自然、美しい農村景観など、農村の大切な資源を守る活動組織に対して交付金を支払いました。

### 【活動組織】

- ・大和地区
- ・南大和地区
- ・弥生地区
- ・北花月地区
- ・花月地区
- ・南花月地区
- ・総進地区

## 中山間地域の支援 1億2748万円

(担当：産業振興課農林畜産グループ)

農業生産条件が不利な状況にある中山間地域の農業生産基盤を維持し、国土の保全、水源の養成、良好な景観の形成といった農地の多面的機能を確保するため、国の中山間地域等直接支払制度を活用しました。



## 農産物ブランド化の支援 110万円

(担当：産業振興課農林畜産グループ)

町内で生産された農産物のブランド化を推進する農産物ブランド化推進協議会に対し、負担金を交付しました。

同協議会では、販路拡大を目指した広告活動や調査活動、ブランド製品の推奨、新製品の計画生産や販路拡大に取り組んだ個人・団体への助成を行いました。

【平成23年度に推奨産品に加わった農産物】

- ・生シイタケ（9月14日）



## 地域用水機能のP R 518万円

(担当：建設課都市管理グループ)

地域用水は農業だけにとどまらず、地域環境の美化、向上の役割も担っています。

美化活動を推進するため、用水路の周辺に花を植えました。また、そっち岳スキー場横の吉沢の里（ホタルの里）の清掃、草刈など維持管理に努め、水辺環境の整備を行いました。

### 【主な取り組み】

- ・5月27日 田植え体験 新小5年生73人
- ・6月11日 ホタルの放流 ゆめクラブ49人



## 有害鳥獣駆除対策 120万円

(担当：産業振興課農林畜産グループ)

エゾシカやアライグマなど有害鳥獣による農業被害の拡大を防止するため、猟友会への駆除委託、わな猟免許を取得する農業者への助成を行いました。

平成23年度は、エゾシカ26頭、アライグマ34頭などを駆除しました。



エゾシカ用のわな

## 森林総研分収造林事業 1893万円

(担当：産業振興課農林畜産グループ)

環境保全、町有財産資源の保持を図るため、森林総合研究所との契約に基づき、町有林の育成管理を行いました。

平成23年度は、苗木の植栽5ha、下草刈り59.45ha、保育間伐52.99haを実施しました。

## 森林整備活動の支援 1284万円

(担当：産業振興課農林畜産グループ)

民有林の荒廃や管理放棄を増加させないため、地域ごとに共同で町と協定を結んだ森林所有者が作業道整備などを行った場合に、森林面積に応じて交付金を交付しました。

平成23年度は、2,538.32ha（ふるさと公園に換算すると46個分）の森林を手入れするための道を整備しました。

## 一般民有林の植栽支援 361万円

(担当：産業振興課農林畜産グループ)

地球温暖化防止や土砂流失防止など、公益的機能の高い森づくりを進めるため、町内の森林において、伐採後の再生林や無立木地への植栽を行う所有者に対して助成しました。

平成23年度は、16.96ha、34,420本の植栽に対して助成しました。

## ② 活気ある商工業をめざすまち

### 借入資金の利子の一部助成 193万円

(担当：産業振興課商工観光グループ)

景気の低迷に伴う中小企業への緊急経済対策として、町内の商工事業者が国や北海道の融資制度を利用して借入している資金の利子の「2分の1相当分、1事業者上限50万円」を助成しました。

平成23年度は12社に助成をしました。

#### 【利子補給の対象融資制度】

- ①日本政策金融公庫
  - ・事業資金融資（普通貸付、特別貸付・災害貸付、経営改善貸付）
- ②北海道
  - ・経営安定化資金
  - ・事業活性化資金（ブリッジ貸付を除く）
  - ・経済対策特別資金
  - ・中小企業再生支援資金
  - ・原料等高騰対策特別資金

### 融資のあっせん・利子補給 3039万円

(担当：産業振興課商工観光グループ)

中小企業の経営基盤の強化と健全な資金運用を図るため、町が指定する金融機関に運用資金3,000万円を預けて、融資のあっせんや利子の補給を行いました。

平成23年度は8社に利子補給の補助をしました。

### 商工業者の近代化促進 63万円

(担当：産業振興課商工観光グループ)

中小企業や商店街が進める協同化や商店街の近代化などといった自主的な取り組みに対して支援を行いました。

平成23年度は、3社に固定資産税の補助を、5社に利子補給の補助を行いました。

### 割増付商品券への補助 600万円

(担当：産業振興課商工観光グループ)

購買力の町外流出を防ぎ、地元の消費拡大を図るため、商工会が販売した割増付商品券の割増分を助成しました。

割増付商品券は、平成23年12月1日に発売され、1口1万円で1万2000円分の商品券が、3,000口販売されました。



### ③ 心をいやす観光のまち

#### ふるさとまつり、雪まつりの共催

320万円

(担当：産業振興課商工観光グループ)

企画と運営を行っている実行委員会に対し、開催費用の一部を負担しました。

負担額は、夏のふるさとまつりに200万円、冬の雪まつりに120万円でした。

	開催日	来場者数
ふるさとまつり	7月31日(日)	10,000人
雪まつり	1月29日(日)	6,000人



#### 新十津川物語記念館の運営 147万円

(担当：産業振興課商工観光グループ)

川村たかし原作の『新十津川物語』を紹介する記念館です。平成23年度は、「新十津川120年の歩み」と題して、奈良県十津川村からの団体移住によって明治23年に誕生した本町の歴史を写真で紹介するパネル展を開催しました。

	H21	H22	H23
来館者数	578	997	796



#### 吉野地区活性化センターの運営 470万円

(担当：産業振興課商工観光グループ)

吉野地区の住民で組織する運営委員会に委託して、センターの運営と管理を適切に行いました。

##### 【豆知識】

センター内には、ナトリウム塩化物強塩泉の温泉浴室があり、協力金(大人300円)で入浴することができます。利用可能日は、毎週日、火、水、土曜日です。



**文化伝習館の管理運営 540万円**

(担当：産業振興課商工観光グループ)

陶芸、染物、織物と3種類の工房を持つ文化伝習館の施設管理を行いました。

文化伝習館には、熟練の技術を持つ陶芸指導員や染織指導員などが勤務し、来館者の技術指導に当たりました。また、団体の来館時には、職員を7人まで増員して対応しました。



**キャンプ村の維持管理 214万円**

(担当：産業振興課商工観光グループ)

青少年交流キャンプ村の管理を行いました。平成23年度は、トイレ、炊事場、バンガロー外壁などを修理し、来村者が快適なアウトドア・ライフを楽しめる環境を整えました。

	H21	H22	H23
利用人数	3,321	3,171	3,059



**文化伝習館での工芸体験 445万円**

445万円

(担当：産業振興課商工観光グループ)

文化伝習館で陶芸・染物・織物、フェルトの体験メニューを実施しました。また、週3～5回の講座も実施しました。

団体の来館者は札幌の中学生が多く、1日に150人を超える日が2日間ありました。

【平成23年度の体験人数】

陶芸体験	1,641人
染物体験	509人
織物体験	728人
合計	2,878人



